



全国学力・学習状況調査から

例年、6年生へ実施されている「全国学力・学習状況調査」について、公表時期が遅れましたが、お知らせします。本校の実態として、課題となっているところについては、改めて教科の学習の中で重点的に取り上げ、5年生以下の学年においても、関連するところをピックアップし、つながりを意識しながら取り組みを進めていきます。また、わかったけれど、次にできるかどうかかわからないという思いがなくなるよう、類似の問題などに取り組むことも行っていきます。

1 各教科から見えてきたこと

【成果】

国語科では「読むこと」の「人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりする」という力が十分身につけているようです。また、心に残った理由を60～100字以内で書く記述式の問題に関しても、正答率が高く、根拠をもって答える力があることがわかりました。このように、互いを理解し合う素地がつけられています。この強みをより一層向上させていく必要があります。

算数科では「データの活用」の「表を読み取り、必要なデータを取り出して、落ちや重なりがないように分類整理する」という力がよいという結果が見られました。数値をしっかりと把握するという事は、課題解決にとって欠かせないものです。それらの強みを生かしながら、積み上げなければならない面に取り組んでいきたいと思えます。

【課題】

国語科では「目的や意図に応じて、集めた情報を分類したり関係付けたり、伝え合う内容を検討し、自分の考えが伝わるように表現を工夫すること」に課題が見られました。

この問題では、2つの学校の取り組みをオンラインで紹介する内容をメモに整理し、そのメモを生かして交流していることをつかむ必要があります。

ここでは、相手の立場を通して、目的や意図、聞き手の求めに応じて集めた材料をどのように整理すればよいかを考えることが求められていました。また、オンラインで交流する場面において、事前に整理したメモを生かして、聞き手の求めに応じて即興的に話し方を工夫することや、話し言葉と書き言葉との違いを踏まえた表現を工夫することも求められています。

さらに、メモに整理したことが実際の交流場面において、どのように役立ったのかについて、ICT機器を活用するなどして学習を振り返り、自覚することも求められています。

このように、国語科の学習経験だけではなく、社会科や総合の学習経験が影響した問題であったといえます。例えばメモを生かして話したり、相手の反応に応じて即興的に話し方を工夫したりすることなどは、社会科の校外学習で質問したり感想を話したりする場面や、総

合的な学習において、校外の方に電話連絡したり講師をお招きしてお話を伺ったりする場面が関わってくると思われます。

あらかじめ用意された質問をしたり、お礼の言葉を述べたりするだけではなく、その場で考えて話す経験を重ねることが大切となります。学級内で、常に子供同士の対話を重視した取り組みが必要になってくるということになります。互いの発言などに対して、ただ聞くだけでなく、何が課題となっているのか、疑問点を見いだしながら聴くという姿勢が必要になっていきます。

算数科では、「異種の二つの量の割合として捉えられる数量の比べ方や表し方について理解し、その数量を求めるとともに、日常生活で出会う様々な問題を解決するために、目的に応じて大きさを比べたり表現したりする方法を日常生活に生かすこと」に課題が見られました。

この問題では、家から学校までの道のりが等しく、かかった時間が異なる二人の歩く速さについて比べることが必要です。また、家から図書館までの道のりと時間を読み取り、それらを基にして速さについて考察しなければなりません。

この問題を考えるにあたって、例えば速さの学習においては、速さが一定の場合には道のりと時間が比例関係にあることに気付いたり、速さなど単位量当たりの大きさが平均の考えなどを前提にしていることに気付いたりすることができるようにすることが大切になっていきます。

また、道のりが等しい場合には、時間が短いほど速さが速いということに気付くことができるようにすることも大切になっていきます。

「3分間で180m歩くことを基に、1800mを歩くのにかかる時間」を求める問題では、「10分」という誤答が多くなっていました。180mを1800mに変換する際に10倍だから10分と解答したのだと思いますが、基にしている時間が3分間であることが抜けています。このことから、比例関係で見た時の基にする量がわかっていないことが見えてきます。対策としては右図のような表を用いて数値を整理する力を高めていくことが望まれます。

3	$\times 10$
180	1800

$\times 10$

2 学習状況調査の結果から

【よかった点】

「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」という質問では、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計が100%でした。

ICT機器の活用状況に関する質問項目では、どの項目でも「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計が高い傾向にありました。

その中でも、「当てはまる」に目を向けると、どの項目も全国に比べ+5~10%、県に比べ+10~15%高い数値となっています。

このことから、タブレットを使って情報を収集したりまとめたり考えを共有したりといったことに関しては「自信をもっている」と読み取ることができます。このように、ICTを活用して学習することに意欲をもって取り組むことができる子供たちです。その強さを生かし、これからも日々の学習の中で活用していきたいと思えます。